

令和7年度

美馬市立江原中学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

○自ら学び自ら考え、判断し、主体的に課題解決を図る生徒の育成(自ら学ぶ生徒の育成)
・アナログとデジタルの双方の良さを掛け合わせた授業の実践により、基礎的・基本的な学力の定着を図る
・対話的な活動により、様々な考え方に触れ、自分の考え方を深めたり、広げたりする協働的な授業の実践

校長

河野 昭一

学力向上推進員

真鍋 友介

【各校の取組状況の把握について】

教員同士の授業参観(学び合いウイークや授業研究会、研修など、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。)

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○基礎的・基本的な知識・技能は理解でき、与えられた課題に真面目に取り組める生徒が多い。 ●既習内容の定着ができておらず、知識等を関連付けたり、長い文章を正確に読み取ったりすることに課題がある。	・授業の目標を理解し、見通しをもって学習に取り組み、学習内容が概ね理解できる。 ・学習の過程を通して習得した知識・技能が、既習の知識・技能と関連付けることができる。 ・身に付いた知識・技能を、他の学習や生活の場面において活用することができる。	・生徒の興味・関心を掻き立て、学習に取り組むことができるように発問を工夫する。 ・授業の目標や流れを提示したり、ICT等を効果的に活用したりし、生徒の理解を深める授業づくりに努める。 ・小テストやスタディサプリ等を活用したり、繰り返し取り組ませたりして、知識・技能を確実に習得させる。 ・相互授業参観やメンター制度等を活用し、教師の授業技術を共有し、授業力向上に努める。		・生徒の興味・関心を掻き立てるような発問の工夫を行った。 ・授業の目標や流れを提示したり、ICT等を効果的に活用したりして、生徒の理解を深める授業づくりに努めた。 ・小テストやスタディサプリ等の活用方法について、検討する必要がある。	・生徒に見通しをもって授業に臨ませたり、発問やICTの活用、授業のまとめを工夫したりすることで、学習内容の定着を図る。 ・小テストやスタディサプリ等を効果的に活用し、生徒の知識・技能の定着度の状況を把握し、個別に課題を設定できるようにする。 ・相互授業参観やメンター研修等を活用し、授業力向上を目指す。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○課題解決に向け、ほとんどの生徒が協働的に学び合うことができ、自分の考えを発表したり、友達の意見を聞いたりすることができる。 ●根拠を示しながら筋道を立てて説明したり、必要な情報等を取り入れ、自分の考えをまとめたりすることに課題がある。	・課題に対して、話し合い活動等を通して、解決する方法を考えることができる。 ・自分の考えを相手の考えと比較・関連付けて、お互いの良さに気づき、さらに自分の考えを深めることができる。 ・既習内容をもとに、自分の意見を根拠や理由を考えて表現することができる。 ・友達の意見を受け止め、その意見について思考し、自分の考えをさらに深めることができる。	・授業の目標に合わせ、ペア学習やグループ学習の機会を効果的に設定する。 ・ホワイトボードやICT等を効果的に活用し、発表や話し合い活動をさせ、筋道を立て、わかりやすく表現できるように支援をする。 ・生徒の発言や発表に、「なぜ」、「どうして」などの更なる発問を行い、生徒の考えを深める。	・正確に情報を読み取り、複数の情報を関連付け、説明できるようにする。	・授業の目標に合わせ、ペア学習やグループ学習の機会を効果的に設定する工夫を行った。 ・複数の情報を関連付けて、説明できるようにする支援する行うことができた。 ・生徒に質問に対して、更なる発問を行うことができたが、発問内容について検討する必要がある。	・話し合い活動等を通じて、自分の考えと他の意見を比較・関連付けて、さらに自分の考えを深め、説明できるようにする。 ・生徒に発言や発表に対して、教員や他の生徒が疑問点を質問できるようにする。 ・複数の情報と既習内容を関連付け、説明できるようにする。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○各教科の授業に落ち着いて取り組むことができ、教師の話聞き、理解しようとする生徒が多い。 ●テスト前のみ勉強したり、難しい問題は諦めてしまったりする生徒が多く、家庭学習の習慣が定着していない生徒が多いことが課題である。	・将来の夢や目標、卒業後の進路に関連付けながら、自らの目標を設定することができる。 ・自ら学ぶ意識をもち、学ぶ喜びとわかる喜びを実感し、目標達成に向け、主体的に取り組むことができる。	・SWPBS(ポジティブな行動支援)を継続的に行い、生徒の学習意欲を高める。 ・各教科担当や担任が連携し、学習がより充実したものになるように個別の助言を継続的に行い、主体的に取り組めるようにする。 ・面談や個別指導を通して、生徒自ら学習課題や目標を設定できるようにし、探究的に学習に取り組むことができるようにする。	・生徒一人一人の目標や計画を見えるようにし、確認や反省、修正がすぐに見えるようにする。	・SWPBSを継続的に行い、生徒の学習意欲を高められるように努めたが、個別の課題設定の見える化が不十分だった。 ・各教科担当や担任が連携し、学習がより充実したものになるように個別の助言を継続的に行った。	・SWPBSを今後も継続的に行い、生徒の学習意欲の向上に努めるとともに、個別に学習課題や目標を設定できるようにする。 ・生徒の目標や計画、成果が見えるようにし、確認や修正がすぐに見える工夫を図ることなどを通して、生徒の学習意欲を高める。